

リハビリテーション栄養ハンドブック

地域包括センターいぶき
石黒幸枝（歯科衛生士）



B6判 / 292頁
定価 3,780円
(本体 3,600円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2010年11月発行)

「リハビリテーション栄養」という言葉は、あまり聞き慣れないかもしれませんが。しかし本書を読み込むにつれて、その言葉に納得し、歯科衛生士にも必要な知識だと確信するでしょう。

私たち歯科衛生士は、口腔にかかわる専門職として、乳幼児期の離乳食からおやつ指導、学齢期にわたっての食育指導など、「食」とは密接な関係にあります。成人期になると生活習慣病とのかかわりが深くなるため、全身疾患を理解し、メタボリックシンドロームを予防するための食べ方支援が重要になります。また、「歯周病と糖尿病」のように口腔の疾患と全身の疾患とが関係していることから歯科医療職による関与が求められているのではないのでしょうか。

高齢期になると、摂食・咀嚼・嚥下機能の低下という特性をふまえながら、低栄養の予防、良質なタンパク質を十分摂取できるような栄養指導が必要です。さらに、歯科衛生士はいろいろな疾患や障害をもった患者さんや施設利用者に対応するので、口腔をみ

ているだけでは十分とはいえません。栄養状態を評価せず、口腔リハビリテーションを熱心に行っても効果は得られず、逆効果となってしまうことさえあります。

では、リハビリテーションとは何でしょうか。本書には、「リハビリテーション＝機能訓練」ではなく、「機能訓練はリハビリテーションのごく一部でしかない」と書かれています。また、リハビリテーションにはICF(国際生活機能分類)やサルコペニアなどの知識も不可欠です。サルコペニアとは、狭義には加齢に伴う筋肉量の低下、広義にはすべての原因による筋肉量と筋力の低下とあり、その原因によって対処法が変わるため、しっかり学ぶ必要があります。

本書では27名に及ぶ各分野の専門家が執筆されており、専門性が高く、なおかつ非常にわかりやすくまとめられています。第14章「おもな疾患・障害のリハビリテーション栄養」では、診療室勤務の歯科衛生士も知っておきたい疾患が多数掲載されており参考になります。

2010年からは、歯科衛生士も日本静脈経腸栄養学会のNST専門療法士を取得できるようになりました。これはNST(栄養サポートチーム)や多職種協働のなかで歯科が求められているということに他なりません。ハンドブックサイズで扱いやすい本書は、臨床栄養を学ぶ者の必携の書となること間違いなしです。「栄養ケアなくしてリハなし、リハなくして栄養ケアなし。リハにとって栄養はバイタルサインである」——歯科医療職にとっても興味深い分野となりそうです。